

交換留学生用日本語科目における
「訳語自動化単語リスト」導入の試み

大 澤 恵 利
(東洋大学国際教育センター)

交換留学生用日本語科目における 「訳語自動化単語リスト」導入の試み

大澤 恵 利 (東洋大学国際教育センター)

要旨

本稿は、交換留学生対象の日本語スピーキング授業において導入した「訳語自動化単語リスト」の実践を報告するものである。日本語中級レベルの履修者が多様な文化的・言語的背景を持つ中で、かねてよりプレゼンテーションの理解や集中力の維持に課題があった。先行研究が示す語彙リストの有効性に基づき、本クラスでは Google スプレッドシート上で漢字の読みがなや多言語訳を自動入力できる単語リスト書式を導入した。単語リスト書式には「よみたん API」による漢字読みがなの自動入力と GOOGLETRANSLATE 関数による多言語訳を組み込んだ。これにより、履修生は日本語列を入力するのみで単語リストを完成させることが可能となった。この結果、発表者は聴衆に単語リストの参照を促し、聴衆は単語リストを参照しながら発表を理解する姿勢が定着した。また、多言語訳を通じて各自の言語的背景を意識し、相互理解を深める契機ともなった。一方で、自動翻訳の精度や訳語の自然さには課題が残った。今後も他の翻訳ツールの活用可能性を探りつつ、多文化共生を意識した授業設計を進める必要がある。

キーワード：プレゼンテーション、多言語・多文化主義、単語リスト、機械翻訳、自動翻訳、多文化共生社会

目次

1. 本クラスの概要
2. 問題意識
3. 先行研究
4. 「訳語自動化単語リスト」とは
5. 「訳語自動化単語リスト」書式の作成方法
6. 「訳語自動化単語リスト」使用の実際
7. 漢字の読みがなと訳語の検証
8. 今後の課題
9. まとめ

1. 本クラスの概要

筆者が2023年度秋学期より担当している「Japanese Speaking Ⅲ」は、交換留学生のためのスピーキングクラスである。本学の日本語能力指標（TJ）において3レベル（日本語をある程度学んだレベル）の学生を対象としている。本クラスの目標は、中級レベルの日本語スピーキング力を習得することである。

交換留学生は開講前にプレースメントテストを受験し、その結果によりクラスが振り分けられるが、交換留学生が実際に履修するクラスを決定する際には、交換留学生自身の希望が優先されることもある。そのため、本クラスの履修生の日本語レベルにはばらつきがある。本クラスは日本語中級レベルであるため、クラス内での使用言語は基本的に日本語としている。しかし、担当教師が履修生とやり取りする際、あるいは履修生同士がやり取りする際には、英語が使用されることもある。

本クラスでは、履修生には自分の興味や関心に沿った3つのプロジェクトワーク（調べ学習）を課し、履修生はフォーマルな語彙・表現を使って3回のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは、単なる口頭表現練習ではなく、大学教育で必要とされる論理的説明力や根拠を示す力といったアカデミックスキルを養う機会となる。また、多様な文化的背景を持つ履修生が互いの知識や視点を共有することで、異文化理解や協働的な学びを促す点でも教育的意義が大きい。

本クラスでは、まず担当教員（筆者）が発表デモンストレーションを行う。そして、日本語プレゼンテーションの基本的な構成（序論、本論、結論）、作成時の注意点について説明する。さらに、発表スライドの作り方、プレゼンテーションに欠かせないフォーマルな挨拶・表現、質疑応答の指導を行う。

また、本クラスでは、プレゼンテーションのテーマ一覧表を Google ドキュメントで作成し、クラスで共有している。プレゼンテーション実施前には履修生が各自で目標の設定を行い、プレゼンテーション実施後には自己評価と相互評価を行っている。担当教員からは履修生にコメントを記入したプレゼンテーション振り返りシートを渡し、個別指導している。

なお、本クラスには数名の学部学生がボランティア登録している。このボランティア学生は、履修生のブレインストーミング（発表テーマ決定のためのグループディスカッション）を補助したり、プレゼンテーションの質疑セッションに参加したりすることもある。

2. 問題意識

本クラスのプレゼンテーションは、履修生を3～4人のグループに分けてグループ内で行う場合（2回）と、一人ずつ前に出てプレゼンテーションを行う場合（1回）とがある。

残念ながら、クラスメートのプレゼンテーションを聴かずに自分のプレゼンテーション

の準備をしていたり、スマートフォンで授業に関係ないことをしていたりする履修生が一定数いる。プレゼンテーションの準備の際、テーマを事前に共有することに加え、履修生には発表用スライドに訳語を含めるなどの工夫を促してきた。しかし、本クラスの履修生にとって、初見のスライドを見ながらクラスメートの発表を聴くというのは簡単なことではない。中級レベルとはいえ、発表者が正確に発音し、適切な単語、表現、文法を用いて話せているとは限らないからである。そのため、履修者がクラスメートのプレゼンテーションを十分に理解していない可能性がある。特に大教室での個人プレゼンテーションの際は、履修生が次第に集中力を失っていく様子が見て取れた。発表中、筆者が机間巡視し、何度注意しても態度を正さない履修生が少なくなかった。このことは担当教員として大きな悩みであった。

3. 先行研究

柴崎（2005）は、外国語学習者が語彙リストで未知語の母語訳を知ることによってテキストの難しさを軽減する効果があることを明らかにした。これは、語彙リストを学習者のレベルや授業活動と結びつけて活用することの重要性と、語彙リストが単なる語彙の暗記にとどまらず実際の言語使用にも生かせる学習につながることを示唆している。

また、山本（2020）は、発表者が聴衆用資料として「難しい単語・表現リスト」を作成し、クラスで事前に共有することで聴衆のプレゼンテーション理解を支援できたとし、授業設計上、事前に語彙リストを構築・共有する実践の有用性を示した。

近年、外国語学習における機械翻訳の活用に関する調査研究が増えているが、寺門（2023）、寺門ら（2024）は、日本語学習における機械翻訳の活用が語彙・文法の確認、カタカナ語や熟語の習得、日本語コンテンツの教材化などに有効であるとした。特に、機械翻訳は「書く」、「読む」の学習で効果が大きく、多言語環境における日本語教育支援の可能性を示している。その一方で、誤訳や不自然な表現もあるため批判的利用が必要であることも指摘している。

4. 「訳語自動化単語リスト」とは

上記の先行研究から知見を得た筆者は、24年度秋学期から本クラスの履修生に対してプレゼンテーションの発表スライドと併せて単語リストの作成と事前共有を課すことにした。

本学の交換留学生の出身国・地域は様々で、当然のことながら母語も様々である。前述した通り、交換留学生の日本語クラスにおいては、目標言語である日本語以外に英語が使用される場面が少なくない。本クラスのシラバスも英語で書かれたものが配布されている。

しかし、多言語・多文化主義の観点から考えると、どの履修者の母語に対しても公平・公正であるべきである。そこで、筆者は英語以外の訳語も単語リストに組み込めないかと考え、多言語訳が自動入力されるようにあらかじめプログラムをした「訳語自動化単語リスト」書式の作成に取り掛かった。

多言語訳の単語リストを一から作成することは、履修者にとって大きな負担である。しかし、あらかじめ多言語訳の自動入力がプログラムされた書式を使用するのであれば、履修者にとっての負担は大幅に軽減される。

5. 「訳語自動化単語リスト」書式の作成方法

筆者は、まず Google スプレッドシートで単語リスト書式を作成し、筆者の本学アカウントの Google ドライブにアップロードした。Google スプレッドシートを使うメリットとしては、インターネットに接続されていれば環境を問わず使えること、複数人での共有や共同編集作業がしやすいことがあげられる。筆者は、発表グループごとにファイルを分け、タブで各発表者のシートを切り替えられるようにした。履修生には本学アカウントでの編集権を付与した。

単語リストには、まず漢字の読みがなが必須である。マイクロソフト社製の表計算ソフト Excel には、漢字の読みがなを取得する PHONETIC 関数が用意されているが、Google 社製の Google スプレッドシートでは、ふりがなを取得する PHONETIC 関数が使用できない。

そこで、この単語リスト書式で漢字の読みがなを取得するために「よみたん API」というひらがな化 API を使用した。「よみたん API」は、非商用の利用で 1 日のリクエスト回数が 1 万回以下なら会員登録が不要で、無料利用が可能であるためだ。この単語リスト書式に「よみたん API」を連携させるための Google Apps Script コード（以下、GAS コード）を導入することで、漢字の読みがなの自動入力が可能となる。この GAS コードは、引数を指定したセルのデータを取得し、「よみたん API」にリクエストした結果が出力されるというものである。なお、この GAS コードは、Google Apps Script や生成 AI を活用した業務改善に取り組んでいるエンジニア・ヤマタケ氏が独自に作成したもので、氏が個人ブログで一般公開しているものを使用した。

Google スプレッドシートには、Google ニュートラル機械翻訳システム (GNMT) を利用した GOOGLETRANSLATE 関数という独自の関数がある。各国語への訳語の自動入力は、Google スプレッドシートにこの GOOGLETRANSLATE 関数を組み込むことで実現した。手順は以下の通りである。

構文：

GOOGLETRANSLATE (テキスト, ソース言語, ターゲット言語)

- ① 1つめの引数 [テキスト] で翻訳するテキストを指定 (筆者は日本語列を指定)
- ② 2つめの引数 [ソース言語] で翻訳するテキストの言語を Google Translation の言語コードで指定。
- ③ 3つめの引数 [ターゲット言語] で翻訳後の言語を言語コードで指定。言語コードは「」(ダブルクォーテーション) で囲む。

表1 : 「訳語自動化単語リスト」の例
(囲みが GOOGLETRANSLATE 関数と実際の訳語)

	B	C	D	E	F	G
1			参考: Google翻訳 言語コード一覧			
2	日本語	読み	英語	韓国語訳	中国語訳 (簡体字)	中国語訳 (繁体字)
3 例	電気バス	でんきばす	electric bus	전기 버스	电动公交车	電動公車
4	感染症	かんせんしょう	infectious disease	감염	传染病	傳染病

Google Translation の言語コードを入れ替えることによって、英語はもちろん、あらゆる言語への翻訳が可能になる。なにより自動翻訳・自動入力であれば、スペルミスの心配がない。これも利用する側にとっては大きな利点である。

このように単語リスト書式にあらかじめ関数を組み込んでおけば、履修生の作業は日本語列の入力のみとなる。こうして、履修生が日本語列に入力すれば、漢字の読みがなと多言語訳が自動的に入力されるという単語リストの仕組みが完成した。

表2 : 本クラスで使用した Google Translation 言語コード一覧
(「Google Translation 言語サポート」より筆者が抜粋、作成)

言語名	言語コード
英語	en
韓国語	ko
中国語 (簡体字)	zh-CN
中国語 (繁体字)	zh-TW
ベトナム語	vi
フランス語	fr
ドイツ語	de
オランダ語	nl
スペイン語	es
イタリア語	it
ウクライナ語	uk

6. 単語リスト使用の実際

発表者には、発表開始時に「単語リストがありますので、ご覧ください」と言って、クラスメートに単語リストの閲覧を促してから発表を始めるよう徹底させた。この声掛けにより、ほとんどの履修生がその場で発表者の単語リストを開き、単語リストを見ながらクラスメートの発表を聴くようになった。また、履修生はプレゼンテーションの準備作業に慣れてくると、自主的に単語リストを作成するようになった。そして、発表時に発表者が聴衆に声掛けしなくても、自主的に単語リストを開き、見ながら発表を聴く様子も見られるようになった。

クラスで使用した訳語は、2024年秋学期で11か国語、2025年春学期で7か国語にのぼった。履修生はほかの外国語訳（主に英語）と母語訳を比較しながら、未習語の意味を確認していた。履修生にはアニメやマンガなど共通の話題も多いため、多言語訳をおもしろがる様子も見られた。

7. 漢字の読みがなと訳語の検証

この単語リスト書式の問題点は、その正確性である。「よみたん API」の漢字の読みがなは、「よみたん API」作成者が言うように、検索された読みがなが必ずしも正しいものとは限らない。日本語列に送り仮名までを入力することが大前提であるが、それでも間違った読みがなが検索されることがある。そのため、プレゼンテーションの前にあらかじめ筆者がすべての漢字の読みがなに目を通し、加筆・修正を行った。

前述の先行研究が指摘した通り、機械翻訳が完全に正しいというわけではなく、誤訳や不自然な表現になることもある。そのため、プレゼンテーションを実施した後、履修生に自分のグループで使用した単語リストの訳語を検証させた。

英語母語話者の履修生によれば、GOOGLETRANSLATE 関数による英語訳はほとんど問題ないとのことだった。英語以外の訳語については「意味はわかるが、自然ではない訳語もある」との回答もあったが、おおむね問題ないという回答が多かった。そこで、スプレッドシートのコメント機能を使って、正しい訳語、より適切な訳語を書かせた。

8. 今後の課題

GOOGLETRANSLATE 関数を使った翻訳の正確性については、やはり課題が残る。履修生による検証結果を見てみると、GOOGLETRANSLATE 関数での翻訳は、単語や単文レベルの翻訳ではほとんど問題ないことがわかる。しかし、イディオムや比喩的表現の翻訳となると、やや精度が劣る印象がある。これは、GOOGLETRANSLATE 関数がセル内のテキストという限定的な情報に基づいて翻訳することが原因であると考えられる。

一方、一部の履修生からは、「Google 翻訳より DeepL 翻訳の方が正確で良い」という意見もあった。筆者も日常的に DeepL 社製の機械翻訳サービス「DeepL」を利用しているが、精度の高い翻訳であることもさることながら、単なる単語の置き換えではなく、自然で違和感のない翻訳を出力するという印象を受ける。そこで、筆者は「DeepL」の無料プランを使った「訳語自動化単語リスト」の作成も試みた。Google スプレッドシート上の DeepL 翻訳を実現するには、まず利用者名でアカウント登録をしたうえで「DeepL API」キーを取得する必要がある。その後、GAS コードを導入して「DeepL API」と連携させる。「DeepL」の無料プランの翻訳可能字数は、1 カ月 50 万字までで、リクエスト速度にも制限がある。小規模の翻訳であれば無料プランでも十分足りるだろう。しかし、利用者名でのアカウント登録を求められることから、履修生が複数人で利用し、一斉編集をする「訳語自動化単語リスト」には向かない。

なお、ランゲージソリューションを手掛ける株式会社ヒューマンサイエンスが DeepL、Google、Microsoft、Amazon の機械翻訳サービスの翻訳精度を評価したところ、DeepL が IT 日英、医療英日・日英、契約書英日・日英、特許英日での翻訳精度で最も優れていたという。しかし、分野、言語方向によっては Google、Microsoft などほかの機械翻訳サービスが優れているということも指摘している。

以上のことから、現時点では利用制限がなく、だれでも無料で使用できる GOOGLETRANSLATE 関数が利便性という点で優れていると言えるのではないだろうか。今後、Google 翻訳の精度向上を強く期待したい。

9. まとめ

本クラスで「訳語自動化単語リスト」を使用したことで、履修生が同じクラスに様々な国・地域出身の留学生がいること、そして各々に文化的・言語的背景があることを意識できるようになったのであれば、担当教員として大変喜ばしい。履修生同士が互いの文化的・言語的背景に敬意を払うことは、多文化共生社会におけるコミュニケーションの基本姿勢であり、円滑な授業運営の基本でもある。履修生には、今後も互いの文化的・言語的背景を踏まえた上での積極的な授業参加を促したい。担当教員としては、理想的な単語リストの実現を目指し、今後も引き続き「訳語自動化単語リスト」の検証と改良を重ねながら本クラスで活用していきたい。

参考文献・参考資料

- ・ 柴崎秀子 (2005) 「第二言語におけるテキスト要因と語彙リストの関係」『留学生日本語教育センター論集』 31, pp.141-241.
- ・ 寺門芽衣 (2023) 「AI 機械翻訳利用の影響と日本語学習での AI 機械翻訳の活動方法の検討」『2023 年度日本語教育学会グローバル人材奨励プログラム活動報告』

- ・ 寺門芽衣、菅谷克之（2024）「日本語学習における AI 機械翻訳の活用方法」『CIEC 春季カンファレンス論文集』 15,pp.15-21.
- ・ 山本由紀（2020）「大学英語教育においてプレゼンテーションがスピーキング能力向上に与える効果」『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要』 Vol.10, pp.45-61.
- ・ 「機械翻訳とは？メリット・デメリットから最新動向、「DeepL」と「Google 翻訳」との比較まで解説！」
<https://www.science.co.jp/nmt/blog/32334/#link05>（2025 年 9 月 21 日アクセス）
- ・ 「スプレッドシートで漢字のよみがな（ふりがな）・ルビを取得する方法～ GAS によるオリジナル関数」『Auto Worker ～ Google Apps Script(GAS) と Sikuli で始める業務改善入門』
<https://auto-worker.com/blog/?p=3081>（2025 年 9 月 21 日アクセス）
- ・ よみがな検索システム「よみたん API v2」
<https://yomitan.harmonicom.jp/>（2025 年 9 月 21 日アクセス）
- ・ 「DeepL API キーの取得方法 DeepL とスプレッドシートを使った高精度な翻訳の準備」
<https://84office.jp/get-deepl-api-key/>（2025 年 9 月 21 日アクセス）
- ・ 「DeepL API を使ってスプレッドシートで自然な翻訳を実現する方法」<https://84office.jp/googlesheet-deepl-api-translation/>（2025 年 9 月 21 日アクセス）
- ・ 「GOOGLETRANSLATE」
<https://support.google.com/docs/answer/3093331?hl=ja>（2025 年 9 月 21 日アクセス）
- ・ 「Google Translation 言語サポート」
<https://cloud.google.com/translate/docs/languages?hl=ja>（2025 年 9 月 21 日アクセス）

An attempt to introduce an ‘automated translation word list’ in Japanese language courses for exchange students.

Eri Osawa

(Center for Global Education and Exchange, Toyo University)

Abstract

This paper reports on the implementation of an “automated translation word list” in Japanese-speaking classes for exchange students. Intermediate-level learners with diverse native language backgrounds faced challenges in comprehension and concentration. Prior research has shown that vocabulary lists are effective. Building on this, the course used a word list format in Google Spreadsheets that automatically inputs kanji readings and multilingual translations. The format included automatic kanji reading input via the “Yomitan API” and multilingual translations using the GOOGLETRANSLATE function. Students completed the word list by simply entering the Japanese words in the corresponding column. Presenters encouraged the audience to use the word list, and the audience developed the habit of consulting it to better understand the presentation. The multilingual translations also helped participants become aware of their own linguistic backgrounds and supported mutual understanding. Challenges remain regarding the accuracy and naturalness of automatic translations. Moving forward, it will be necessary to explore other translation tools and develop course designs that foster multicultural coexistence.

Keywords: Presentation, Multilingualism/Multiculturalism, Word lists, Machine translation, Automatic translation, Multicultural society

